

障害児・慢性疾患患児のきょうだいに対する支援 特殊なニーズのある子ども(人)の家族に対する支援システムの構築

なんのための研究？

この研究の目的は、障害児や慢性疾患患児のきょうだいの発達を保障するためにはどんな支援システムが有効かを明らかにすることです。なぜならば、きょうだいには見逃されやすいですが、多様な課題があるからです。たとえば、介助負担、地域での偏見や差別、親亡き後の心配などです。



研究のポイントは？

- ・調査で、きょうだいは多かれ少なかれ、障害による特殊な経験をしていることを明らかにしました。
- ・きょうだい同士が経験や感情を交換するグループワークを実施し、きょうだいの孤独感を解消するとともに、話を聞く貴重な機会になることを実証しました。
- ・未就学児、学童、中高校生用モデルを開発しました。

実用化に向けて

- ・普及のために、親の会の協力を得てキャンプでのきょうだい活動、週末に数人のきょうだいと学生が外出するミニショップの実施と評価を行いました。
- ・低学年用には人形劇、紙芝居を開発しました。
- ・支援者育成プログラムも開発中です。



研究代表者

国立身障害者リハビリテーションセンター研究所
障害福祉研究部
北村弥生 kitamura-yayoi@rehab.go.jp

